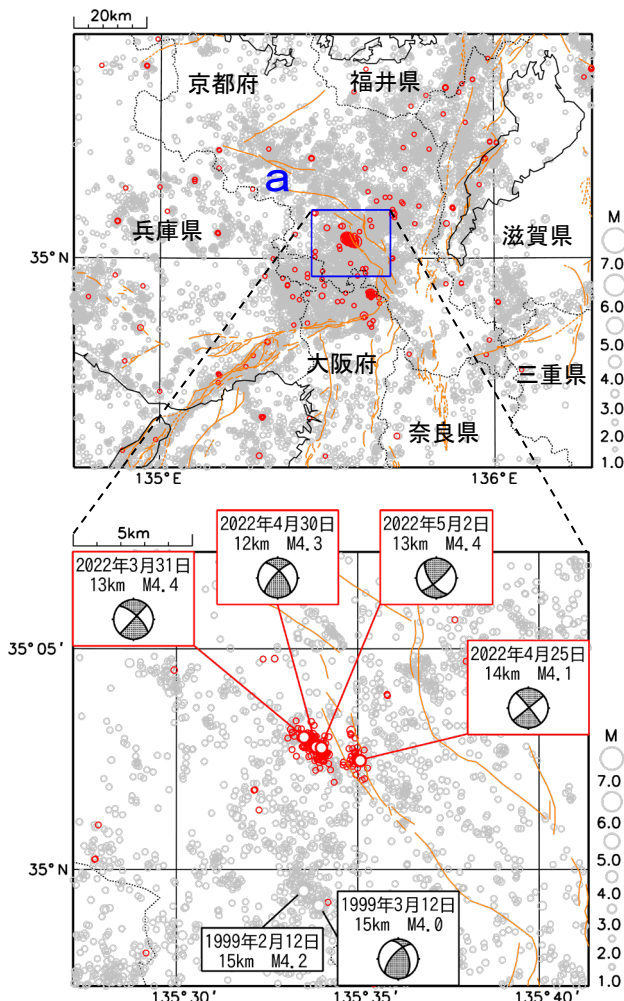
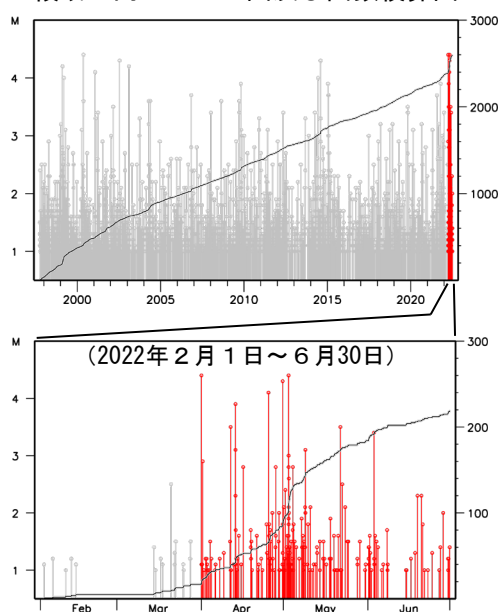


3月31日からの京都府南部の地震活動

震央分布図
(1997年10月1日～2022年6月30日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2022年3月31日以降の地震を赤色で表示



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



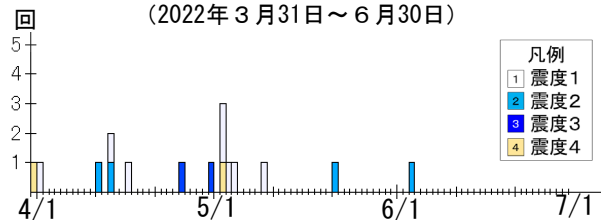
京都府南部では、2022年3月31日頃から地震活動が活発となり、6月30日までに震度1以上を観測する地震が16回（震度4：2回、震度3：2回、震度2：4回、震度1：8回）発生している。この間、地震活動は消長を繰り返しながら継続してきているものの、6月中旬以降はそれ以前と比べると活動が落ち着いてきている。

3月31日から6月30日に発生した地震のうち、M4.0以上の地震は4回発生しており、最大規模の地震は、3月31日に深さ13kmで発生したM4.4の地震及び5月2日に深さ13kmで発生したM4.4の地震（ともに最大震度4）であった。これらの地震の発震機構は、東西方向もしくは西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

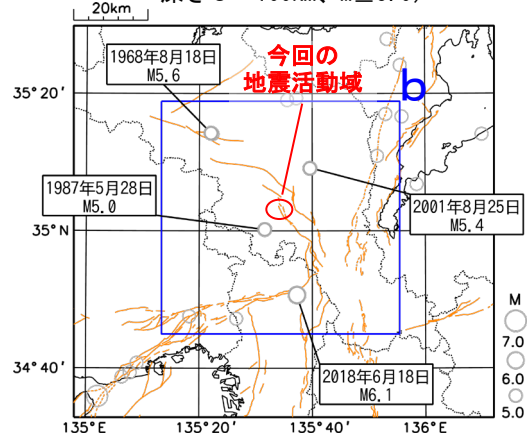
1997年10月以降の活動をみると、今回の活動域付近（領域 a）では、M4.0程度の地震が時々発生している。このうち今回の活動のように、1ヶ月ほどの期間内にM4.0を超える地震が複数回発生するような活動は、今回の活動域のやや南側でも1999年2月から3月にかけて発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の活動域周辺（領域 b）では、M5.0以上の地震も発生しており、2018年6月18日には大阪府北部の地震（M6.1）が発生し、死者6人、負傷者462人などの被害が発生した（2019年4月1日現在、総務省消防庁による）。

震度1以上の日別最大震度別地震回数図
(2022年3月31日～6月30日)



震央分布図
(1919年1月～2022年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。